

平成20年度 内閣府青年国際交流事業の概要

<カンボジア王国・レポート>

Cambodia 訪問団
団長：中能孝則

<事業の経緯>

国際青年育成交流事業は、平成5年の皇太子殿下の御成婚を記念して、6年度から実施しているものであり、昭和34年度に当時皇太子殿下であられた今上陛下の御成婚記念事業として開始された「青年海外派遣事業」と、37年度に開始された「外国青年招へい事業」を継承・発展させたものである。

<目次>

事業の概要	・・・・・・・・(1)
まずはまっすぐな気持ちで見ることから始めたい	・・・・・・・・(5)
スラムに輝く子どもたちの瞳	・・・・・・・・(7)
独房の外には昔も緑の風が吹いていた	・・・・・・・・(10)
間一髪でカンボジアの胡椒を蘇らせた日本人	・・・・・・・・(12)
子どもたちの生きるパワー	・・・・・・・・(15)
笑顔と歓声が沸きあふれているフレンズ	・・・・・・・・(18)
事後研修・帰国後の研修から	・・・・・・・・(20)
成果発表会レポート	・・・・・・・・(23)

1. 国際青年育成交流事業（第 15 回）

（1）経緯（前頁に掲載）

（2）事業の種類

青年海外派遣（私たちはカンボジア王国を訪問）

外国青年招へい

（3）事業の概要

青年海外派遣

ア 目的

国際青年育成交流事業（青年海外派遣）は、日本の青年を海外に派遣し、訪問国の青年との国際協力活動やボランティア活動の体験を通じた交流、訪問国における日本文化の紹介、訪問国の諸事情の研究等を行わせることにより、日本及び訪問国の青年相互の友好と理解を促進し、併せて日本の青年の国際的視野を広げ、社会参加、国際協力の精神の醸成と国際協力における実践力を向上させ、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青少年健全育成活動に参加青年が寄与することを目的として実施する。

イ 派遣の時期及び期間

平成 20 年 9 月 7 日（日）～9 月 27 日（土）21 日間

ウ 訪問国

バルト三国（エストニア共和国、ラトビア共和国、リトアニア共和国）、
カンボジア王国、ドミニカ共和国、ラオス人民民主共和国

エ 構成

訪問国ごとに派遣団を編成する。各派遣団は、団長 1 人、副団長 1 人及び参加青年 15 人をもって構成する。

オ その他

事前研修 5 泊 6 日、直前研修 2 泊 3 日、事後研修 3 泊 4 日、

2. 参加青年の募集について

参加者の選考：全国からの応募者約 600 名の中から、都道府県からの推薦で 200 名に絞られ、東京で内閣府主催の 2 次試験（参加動機の小論文、日本語と英語による面接）により、110 名が選ばれる。（バルト三国、カンボジア王国、ドミニカ共和国、ラオス人民民主共和国に各 15 名。韓国と中国に各 25 名の合計 110 名）

カンボジアの参加者：大学生を中心に 15 名

団 長：中能孝則（財団法人社会教育協会 ひの社会教育センター 館長）

副団長：野口洋子（前カンボジア青年海外協力隊員、広島大学大学院生）

団 員：15 名（大学生 13 名、社会人 2 名。）（男子 5 名。女子 10 名）

3．事前研修

期間：2008年7月7日（月）～12日（土） 5泊6日

場所：代々木 オリンピック青少年センター

内容：*顔合わせに始まり、本番に向けて、役割分担をはじめ自分たちで運営できるように準備を進める。

*この間、カンボジア大使館訪問、内閣府の招聘事業に来日中のCambodiaの青年たちと対面、意見の交換、浅草の案内などを行う。また、

*皇太子殿下とのご接見もあり、日本青年たちの状況を報告する。

4．直前研修

期間：2008年9月5日（金）～7日（日） 2泊3日

場所：代々木 オリンピック青少年センター

内容：本番に向けて最終調整。増原副大臣はじめ関係者のご出席により壮行会。

5．本番

期間：2008年9月7日（金）～27日（土） 21日間

場所：カンボジア王国（4都市）

内容：*訪問都市（プノンペン15泊。シアヌークビル2泊。シェムリアップ3泊。タケオ日帰り）

*青年スポーツ省表敬訪問（青年たちとの交流、夕食歓迎会）。
（7月に日本に招聘された青年たちが中心になって進める）

*Tiger Factory（タイガービール工場）訪問。

（1日24,000ケース出荷しても供給が間に合わない状況）給与は750ドル。

*日本大使館表敬訪問。

*JICA事務所表敬訪問。

*シアヌークビル訪問（美しい海岸線を楽しむ）

*レアム国立公園訪問（シニアボランティア山路さんのお話を伺う）

*国立博物館訪問

*王宮訪問

*王立プノンペン大学を訪問（パフォーマンス披露とゲーム）

（日本語学んでいる学生と交流）

*カンボジアボーイ/ガールスカウトと合流。（1日中ボーイスカウトの活動）

*社団法人シャンティ国際ボランティア会の案内でスラムの小学校訪問

（1年生への就学率は75%、5年生までの進学は5割を割る。先生の給与40ドル）

*クラタペッパー訪問

（日本・カンボジア両者が利益につながる活動の展開）

*タケオ着（織物の訓練所訪問）

海外青年協力隊の活動について

- * タケオ州農業部門代表訪問
- * トゥールスレン虐殺博物館訪問
約200万人の虐殺。今も尚その後遺症が続いている
- * 市内散策(セントラルマーケット・ワットプノムなど)
市内は活気にあふれてはいるが、貧富の差はあらゆるところにある。一方トヨタのレクサスが所狭しと走り回っている。
- * YAC(カンボジア青少年連盟)と交流
次のカンボジアを担う青年たちの育成に力を入れている
- * カンダール州アンスール地区訪問(不発弾処理の実演)
プノンペン市内には地雷はないが、国境地帯にはまだ600万発はあるとのこと。また不発弾の処理もまだまだ続く予定。
- * ホームステイ(2泊3日)
- * シェムリアップ訪問(アンコールワットのあるところ)
- * シェムリアップ州知事のあいさつ
- * バイヨンのJASA(日本政府アンコール遺跡救済チーム)訪問
- * タ・プローム寺院
- * 上智大学アンコール遺跡調査団とアンコールワット訪問
- * プノンバケン訪問(日没観測)
- * バンテアイ・スレイ寺院訪問
- * IKTT(クメール伝統織物研究所)訪問
森本氏の信念のある話に圧倒される。
- * シェムリアップ州の芸術学校訪問
(カンボジア伝統の踊りを継承している)

6. 帰国後研修

期間：2008年9月27日(土)～30日(火) 3泊4日

場所：代々木 オリンピック青少年センター

内容：* カンボジアでの3週間を振り替える。

* 報告書の作成に向けての準備、今後の活動に向けての打ち合わせ。

* 皇居を訪問、天皇皇后両陛下にご接見、両陛下にカンボジアの様子と活動の様子を直接ご報告する。

* 小淵優子少子化担当大臣にもご報告し、皇居にて記念撮影。

(文責：Cambodia 訪問団 2008 団長 中能孝則)